

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ会
徳島市幸町2丁目5番地
徳島市幸町2丁目5番地
徳島市幸町2丁目5番地

〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

名所・旧跡

渭北の誇る興源寺

渭北街づくり協議会

会長 近藤辰夫

渭北の名所・旧跡として下
助任町にある興源寺及び緑地
公園を紹介します。

まず、「興源寺」は一五八
六（天正十四）年に蜂須賀家
政が父正勝の菩提を弔うため
徳島城内に江岸山福



大雄山興源寺

聚寺を建立しました
が、一六〇七（慶長
十二）年に現在の地
に移転し、その後、
一六五〇（慶安三）
年に大雄山興源寺と
改め、蜂須賀二十五
万石の菩提寺として
寺領を与えられました
た。この興源寺は臨
済宗妙心寺派に属
し、妙心寺派の大道
場として多くの名僧
智識を送り出してき



蜂須賀家歴代藩主の墓石群

また、墓所周辺の
区域は最近になって
徳島市公園緑地課に
よって「助任緑地公
園」として整備され、
観光客をはじめ多く
の散策する方に開放
されています。墓石群を取り
込むように噴水や池が配備さ
れ、春から夏にかけては桜や
つつじ、花菖蒲など
色とりどりの花々も
咲き乱れます。楠の
大樹も心地よい木陰
を作ってくれ、池を
泳ぐ鯉の姿も風情が
あり、花見シーズン
にはお弁当持参の家
族連れで賑わって
います。
昭和五十年頃から
は、毎年夏の阿波お
どり期間の初日に阿
波おどり保存会の
方々によって、蜂須

ました。なかでも玉潤禪師は
特に名高く幕末期を代表する
第一流の高僧で、当時は興源
寺を訪れる門弟は数千人を超
したといわれています。しか
し、廃藩後は寺域も縮小し、
昭和二十年の空襲によって伽
藍はすべて灰燼に帰してしま
いました。
戦後二十六年には本堂が、
続いて禅堂や山門が再建され
ました。現在、興源寺には約
四千坪（十三ヘクタール）の
土地に蜂須賀家歴代藩主の墓
所があります。家祖蜂須賀正
勝夫人の墓は墓域外にありま
すが、藩祖から十三代斉裕に
至る歴代藩主が葬られています

ます。特に三代忠英
の墓は総高一丈四尺
（約四・三メートル）
あり日本有数の大き
さと言われており、
これらの墓石群の集
まった様は実に見事
です。
また、墓所周辺の
区域は最近になって
徳島市公園緑地課に
よって「助任緑地公
園」として整備され、
観光客をはじめ多く
の散策する方に開放
されています。墓石群を取り
込むように噴水や池が配備さ
れ、春から夏にかけては桜や
つつじ、花菖蒲など
色とりどりの花々も
咲き乱れます。楠の
大樹も心地よい木陰
を作ってくれ、池を
泳ぐ鯉の姿も風情が
あり、花見シーズン
にはお弁当持参の家
族連れで賑わって
います。
昭和五十年頃から
は、毎年夏の阿波お
どり期間の初日に阿
波おどり保存会の
方々によって、蜂須



助任緑地公園の花菖蒲

賀家政の墓前で奉納踊りが催
されています。焼香の後にひ
と踊りしてから山門を抜けて
市内へ繰り出すことが恒例と
なっています。秋にはふるさと
カーニバルとして狸祠めぐ
りの人たちでも賑わっていま
す。
私たち渭北の誇りである興
源寺・助任緑地公園にぜひ一
度足をお運びください。



地域と共進コミュニティ活動

八万コミュニティ推進協議会

会長 岩田 唯夫

眉山の南側にあり、かつては有数の田園地帯であった八万地区ですが、宅地開発が進み、今や市内一の人口を持つ住宅地として発展しています。徳島のほとんどの市町村で人口減少と高齢化が進んでい

ます。八万町内も例外ではなく、地域で孤立したり、日常生活で足腰が弱って、動くことが難しくなった高齢者が増えてきています。

このような問題に、地域コミュニティが取り組む時期にきているのではないのでしょうか。



八万育成会一泊研修 木工教室

今年も成人式の準備が始まったコミセン活動ですが、早いもので半年が過ぎました。通学時の子どもの見守り、朝の立哨、青色回転灯によるパトロール、八万南小学校河川敷通学路の草刈り清掃で児童の安全確保（四月～八月）と、たくさんの方々の支えられて、安全で住みよい町づくりに取り組



町民によるアジサイ周辺の草刈り



町民によるアジサイ周辺の草刈り

んでいます。各種団体の活動では、防災訓練で婦人会による炊き出し訓練と指導、園瀬川堤防のアジサイ周辺草刈り（五月～九月）、八万青少年育成会による「夏休み子どもの一泊研修」でテントの設営、飯

敬老会、町民体育祭、八万文化祭と町内全組織の応援のもと、毎年たくさんの方が参加協力されています。

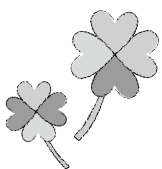
八万地区では、二つのコミセンがありますが、八万コミセンは町内でも園瀬川の南にあつて、ちよつと立ち寄るには少し遠く、どうしても足が遠ざかります。少しでも八万

活用していきたいと思っています。

動できるような体験を準備しています。

後期の大きな行事として、

るニュースポーツを始めました。場所をあまりとらず、認知度が上がってきたベタンクを一年前から始めています。また、今年に入つてカローリングをしたいの申し入れがあり、六月から練習を始めました。町民の方の健康維持、また、交流の場として多くの方に利用していただけるよう、これからもコミセンを



災害避難所運営訓練 を実施して

応神地区自主防災会連合会

近年、日本列島では地球温暖化に伴う異常気象や南海地震による地震災害・津波被害など多くの自然災害が予測され、その対策が地域において必要になっていきます。応神地区においても南海地震による津波からの避難訓練を主として行ってきました。

そうした中、平成二十九年五月に徳島市危機管理課から「市民総合防災訓練として災害避難所運営訓練をしましょう。」とのご指導を受け、地域で協議した結果、大規模災害が発生すれば避難所の運営は必ず必要になるため、実施することになりました。

平成二十九年十一月二十六日に応神小学校において実施すると定め、地域の各種団体総出で危機管理課とコンサルティング会社との打ち合わせや

訓練内容の説明会を開催し、避難所運営の知識の習得に努めました。その数は十回を超え、訓練に万全

の準備をしました。その内容は、仕事の内容別に班分けをしました。被災者の受

付等を担当する「総務班」を始め、「被災者管理班」、「情報班」、「食料班」、「施設管理班」、「保健班」、「要配慮者支援班」、「女性班」の八班で班別に研修を受けました。その他、本部長役、副本部長役、要配慮者役、炊

き出し班で合わせて約百三十人の地域スタッフを編成しました。訓練当日は、遠藤市長からの激励を受け、五百三十人の参加のもと訓練が始まりました。スタッフ一同少しの自信と少しの不安の中、避難者役の一般市民が受付に押し寄せました。すると、すぐに受付がさばれない。受け付けた文字が読めない。案内する場所がよくわからない等、混乱が



始まりました。それでもそれぞれの役割分担の中で必死に対応をしていました。が、仕事の流れに乗れず立ち止まってしまいうスタッフも見かけられました。何とか訓練が終了し、やり遂げたと思う少しの満足感と、これが本番であればどうなっていたかという大きな不安が混在する一日となりました。

後日、十二月十五日に三十五名が集まり反省会を実施したところ、多くの意見が寄せられました。集約をすると、運営スタッフも避難者も年齢や健康状態、ものの考え方等等べてが異なる人々が集まって避難所を構成するため、頭でマニュアルを理解しているだけでは運営は困難です。頭で理解し、体で理解し、避難者の気持ちを理解することが必要です。今後においては、

より詳細な知識の習得や訓練が必要であるとの結論でありました。「応神地区自主防災会連合会」は、より良い避難所の運営ができるよう知識の習得や、訓練の実施に努めたいと考えています。



(応神町コミュニティ協議会)



「防災に強い街」をめざして

新町コミュニティ協議会

新町コミュニティ協議会は、眉山の麓、新町小学校と隣接した新町公民館に事務所を置き活動しています。多くの方が参加できるさまざまな事業を計画し、実施していま

す。今回は、その中から一つ紹介させていただきます。協議会では、自主防災会など地域諸団体と連携し近年発生が予想される南海トラフ大地震等の災害に備え、定期的

に防災訓練、先進地への視察研修などを計画しています。昨年は、防災倉庫の資機材を利用しての防災訓練を四月と十一月の二回、また六月には重点的に津波対策をしている海部郡美波町阿部地区への視察研修を実施しました。視察では地区の住民のニーズにあつた防災倉庫、また自作の避難路、高齢者が多い地域なのでいかに早くどのような避難場所に誘導するかなど、さまざまな工夫をこらし

た対応、対策を見学してきました。参加者からは、このような地域による地域住民のための防災対策を、新町地区も早急に考えていかなければとの意見が多く聞かれました。新町地区「地震・津波避難支援マップ」では、住民の意見を取り入れ、実際に歩いて確認し、自分にあつた地図を作成、防災意識を強めることを目的とする「わが家の避難マップ」(白地図)を添付しました。

伊賀町は伊賀士町と呼ばれ、九人の伊賀役屋敷があり、伊賀役は戦時中は諜報活動や謀略活動など、隠密の役割を果たしていました。平時には、徳島城内の表御殿「伊賀士詰所」に勤務、城中警備、情報収集



防災倉庫の資機材を利用した訓練



海部郡美波町阿部地区への視察研修

城下町西富田からはじまる

西富田コミュニティ協議会

に当たっていました。

弓の者が二組、合計六十人ほどが配置されており、徳島城の見張り、町目付、御仕置屋

敷の事務、江戸屋敷の警備も務めていました。

幟町は幟丁と呼ばれ、御幟の者(旗の者ともいう)一組、二十人余りの集団住宅がありました。御幟の者は「旗頭」となり、旗の者の他は、弓組と鉄砲組の住宅が占めていました。

大道は、土佐街道から徳島城に至る主要な街道筋で、本陣を親衛する役目を担った人たちがたくさん住んでいました。鷹匠町は、町内の鷹匠二人、各鷹匠は拝領した屋敷に鷹部屋を作り飼育訓練をしていました。

栄町は、定普請丁と呼ばれ、四組約八十人の定普請の者がいました。作事奉行の配下であり城の補修工事などに当たっていました。(前西富田公民館長 岩佐重明氏講演より)

現在の西富田地区は、眉山山麓に市街と思えないほどの静寂な住宅街となっています。

西富田コミュニティ協議会は「西富田カフェ」「西富田まつり芸能大会」「西富田コミセンまつり」「年末カンカラ缶作戦」「避難訓練と防災

教室」など、子どもから高齢者まで、地域住民が多く参加できる行事を行っています。

また、共催・助成事業としては「子どもの日歩け歩け大会」「夏休みラジオ体操」「救急救命法講習会」「阿波踊りちびっこモラエス連」「西富田まつり(美術展)」「敬老会」「料理教室」「三世代餅つき大会」「西富田・新町地区成人式」など、地域活性に繋がる多くの行事に取り組み、地区全体の連携を図り、子どもか

地域の子どもは

地域で守る

不動コミュニティ協議会

近年、子どもを対象とした犯罪が増加しています。不動町では「地域の子どもは地域で守る」を合い言葉に、さまざまな防犯活動を行っています。

毎週月・木曜日に、青色回転灯を装備した青色パトロール隊員が、巡回パトロールを行っています。登校時にはス

ら老人まですべての住民が住みよい町づくりに努め、ボランティア精神や温かい人間性にあふれる生活が日々送れるように取り組んでおります。これが皆さまに知っていただきたい、私たちの住む西富田です。



クールゾーンで見守り活動を行い、下校時には通学路の巡回をし、事件・事故から守っています。

不動町の伝統となっている「対話集会」は、不動小・中学生を対象に、夏休み中の過ごし方や、交通安全についての講話を行います。徳島名西警察署生活安全課の方や

不動防犯協力会長がたくさんの質問に答え、安心して安全な夏休み中の生活が行われています。また、夏休み・冬休み期間中には、子どもたちが楽しく安全に過ごせるよう、地域ボランティアと不動駐在所長が不動町内を十四時と十九時から二班にわかれて隅々までパトロールしています。

この他にも、町内を流れる三河川(吉野川・鮎喰川・飯尾川)に水難事故防止看板を設置し、水難事故防止を呼びかけています。約八十カ所ある看板は、夏休み前に防犯協会の役員が点検し、壊れている箇所は看板を付け替えています。

このように、町内総ぐるみで子どもたちが安全に過ごせるように頑張っています。ボランティアの高齢化が進み、後継者が不足しています。今後の課題としては、若手ボランティアを育成し、これま



対話集会の様子

で取り組んできた伝統的な行事をいかに維持していけるかが課題となっています。町の宝である子どもたちが、生き生きと伸び伸びと成長していきたく思います。



変貌の街「川内町」

川内まちづくり協議会

吉川 泰司

川内町は、吉野川河口左岸に位置して、東は紀伊水道、南と北は吉野川、今切川とデルタ地帯となつて周囲は川に囲まれた所であり、水には緑が深く橋は昔より水道と道路交通の重要な借用施設であります。一八八九(明治二十二)

年市制、町村制施行で十八部落が合併して板野郡川内村となりました。一九五五(昭和三十)年、徳島市と合併して川内町となり、今日に至っています。

近年の健康に関する関心の高まりや、余暇時間の増大に伴い県民の心身の健全な発達に資するため、鳴門〜徳島自動車道(サイクリングロード)を徳島県が



1995年の様子

計画、整備を計り、昭和五十八年開通、路線は鳴門市撫養町(鳴門市役所横)を起点に徳島市川内町鈴江(吉野川大橋北詰)に至る全長三十二、八キロメートルの自転車道ができました。コースは沿線の景観と交通

の安全を考慮し、主に海岸線や河川の堤防上などを利用しており、特に川内の小松海岸は眺望満点であり、利用者の方の利便を図るため休憩所(トイレ等)も設けてあります。町内周辺には阿波十郎兵衛屋敷、田園パーク、工業団地、保養施設等と国道、高速道路を利用した名勝観光に立地し、川内新四国八十八カ所の霊場も存在しており、信仰を集めています。



現在の様子

昔の川内町は、海岸農村で台風等の風水害による被害も多くありました。村内の危険な要素、要所に観音様の石仏を勧請して以来、今日まで十三の観音様は欠けることなく現在に至っております。観音様はいつの時代にも信仰を集めました。例え大波が来ようと嵐が来ようと、時代の変革の波が高くとも、吉野川の流れのように滔々と豊かに流れ、太陽に照らされた川面のごとくキラキラと輝いて私たちをこじんまりとした堂宇の中、また堅固な台座の上に鎮座する観音様、見渡す限りの田園風景の中、この地を往来する人たちの安全を見守っておられます。

現在の私たちは日々雑事に追われ、日常手を合わすことも少なくなってきました。先祖の菩提を祈りつつ、一日歩くもよし、自転車でもよし、車でもよし、レンゲの美しい花が咲く中、五月の青い田の中、また秋の稲穂が実る中、季節、季節が巡る中でほほ笑む観音様にそっとお会いしてはいかがでしょうか。

編集後記

今年の夏の夜空は火星の接近と百年ぶりに木星・土星が並んだ姿に金星が加わり、幸運に満ちた夜空になりました。

地上のわが徳島市では、渭北の誇る興源寺の紹介がありました。雄大な山門は、戦後吉井ツルエさんが再建され、阿波おどり保存会の方々が蜂須賀家政の墓前で奉納踊りを催し、山門を抜けて市内へ繰り出すということです。

西富田は、武士の職能集団として城下町として発展してきたという紹介がありました。川内町は時代によって大きく変貌する街の力を紹介してくれました。

地域の子どもは地域で守るといふ強い意識のもとに活動すると不動地区。地域と歩むコミセン活動を通じた充実したまちづくりを進める八万地区。

また、南海地震等の総合対策は喫緊の課題に対し、応神地区、新町地区は細かい計画と実践活動を展開されておられます。夏の夜空の星たちも地上の幸運を折っています。

(佐藤義忠 記)